

地域社会の「つながり」への気持ちを伝えたい ～プロテック株式会社 北海道共同募金会へ緊急の寄付～

プロテック株式会社(本社:札幌市中央区、代表取締役社長:鈴木文人)では、新型コロナウイルスの影響により街頭募金活動ができないという報道を受け、緊急支援として100万円を寄付しました。



当社取締役児玉より、天羽常務理事へ贈呈の様子

<共同募金の必要性を感じ>

この度の新型コロナウイルスの影響により、イベントや街頭で協力を呼びかける機会も制限されているといえます。

しかし、社会福祉や災害支援など、共同募金の目的と役割は多岐にわたり、その存在は必要不可欠なものです。

そして、共同募金の地道な活動を支え、困っている人一人一人に支援が差し伸べられるような社会を作っていくには、寄付の役割はとても重要です。

我々はどのように支援できるだろう、と考えていた矢先、出張予定だった山形での豪雨の被害の報道が飛び込んできました。

闇雲に現地に行っても何もできない。現場も混乱しているだろう。

はやる気持ちはありますが、客観的に状況を考え、今回は寄付という形で広くお役立ていただくこととしました。

<貧者の一灯>

確かに100万円では困っている人すべてに支援はできません。一方、従業員わずか14人規模の中小企業にとって「100万円」は決して安い金額ではないことも確かです。

弊社代表取締役はよくこういいます。

「お金はたくさんあったほうがいいし、たくさん寄付できればたくさんの人の支えになれるだろう。でも『困ったときはお互い様』という気持ちを忘れては、社会がさみしいものになってしまう。我々は小さな支援しかできないけれど、この気持ちが貧者の一灯になればと思っている。」

ニューノーマル、Withコロナの時代を迎え、これからは寄付のやりかたも変わっていくかもしれませんが、プロテックはこれからも、支えあう社会の在り方を考えていきたいと思っています。

<天羽常務理事・事務局長 のことば>

赤い羽根は国民の助け合いの運動で、地域のつながりを作る活動です。しかし今、その根幹の「つながり」がどうにかなりそうな状態です。我々も組織を挙げて感染拡大防止に向けて努力をしていますが敵は強大です。

そんな中、今回の寄付はとてもありがたく、感謝しています。

引き続き、北海道の困っている人のために役立てたいと思います。